

NIT, GIFU COLLEGE CAMPUS MASTER PLAN 2017

岐阜高専キャンパスマスタープラン 2017

「20年後のキャンパス」を目指して！
世界がもっと身近に…

20年後の岐阜高専キャンパス



NIT, Gifu College

未来の自分を形に

岐阜工業高等専門学校



現状の岐阜高専キャンパス (H28.08撮影)



NIT, Gifu College

未来の自分を形に

岐阜工業高等専門学校

**NIT , GIFU COLLEGE
CAMPUS MASTER PLAN 2017**

巻頭言

岐阜工業高等専門学校
校長

伊藤 義人



「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」によせて

岐阜工業高等専門学校は、昭和38年(1963年)4月に第1期学生を迎え入れて以来、平成25年(2013年)に満50周年を迎えました。当初の本科3学科(機械工学, 電気工学, 土木工学)は、本科5学科(機械工学, 電気・情報工学, 電子制御工学, 環境都市工学, 建築学)となっています。平成7年(1995年)に設置された専攻科も2専攻(電子システム工学専攻, 建設工学専攻)から平成28年(2016年)に1専攻(先端融合開発専攻)に改組されました。

この間、学科や専攻科の増設に応じて、順次、キャンパス内の教育・研究施設の充実整備が行われてきました。岐阜高専は、平成25年(2013年)に50周年を迎え、今後のキャンパス整備計画を「キャンパスマスタープラン2013」として策定しました。このマスタープランに従って、建築学科を除く他学科の建物改修事業も終了しました。

平成28年(2016年)には、国立高専機構施設整備5か年計画(平成28～32年度)を策定しました。岐阜高専は、この施設整備5か年計画との整合性を図り、同年にグローバル高専への指定されたこともあり、高専の高度化のために「キャンパスマスタープラン2013」の点検・見直しをして、20年後のキャンパスを検討してきました。このたび、点検・見直しを終了し、改訂版として、「キャンパスマスタープラン2017」を策定することになりました。今後、日本政府および国立高専機構の財政状況は、非常に厳しいですが、この新たに策定したマスタープランに従って、順次、施設整備充実を進めたいと思います。

目次

■ 巻頭言

1. 「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」の基本目標	
1-1 CMPの趣旨	… 01
1-2 教育の目的・目標	… 01
1-3 第三期中期目標・中期計画、国立高専機構施設整備5か年計画	… 02
1-4 CMPの基本方針、整備方針	… 03
1-5 CMPの活用方針	… 03
1-6 施設マネジメント	… 04

2. 岐阜高専キャンパスの概要	
2-1 国立高等専門学校機構の概要	… 05
2-2 岐阜工業高等専門学校の概要	… 05
2-3 岐阜高専キャンパス	… 06

3. キャンパスの点検・見直しと今後の計画	
3-1 「キャンパスマスタープラン2013」点検・見直しの実施	… 07
3-2 点検・見直しによる達成内容と今後の計画	… 07
3-3 「キャンパスマスタープラン2013」期間中の施設整備	… 08
3-4 キャンパスに関するアンケートの実施結果等	… 11

4. キャンパス計画	… 12
4-1 配置計画 1(キャンパスの現状把握と課題の抽出)	… 13
4-2 配置計画 2(キャンパスの現状把握とゾーニング・動線計画・課題の整理)	… 14
4-3 配置計画 3(将来計画)『20年後の岐阜高専キャンパス』	… 15
4-4 詳細計画 1(①ゾーニング計画)	… 16
4-5 詳細計画 2(②パブリックスペース計画～⑥インフラストラクチャー計画)	… 17
4-6 詳細計画 3(⑦将来計画建物)	… 20
4-7 第4次5か年計画表	… 21
4-8 将来計画建物	… 22

5. 資料編 (参考資料等)	… 27
5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出	… 28
5-2 キャンパスに関するアンケート資料	… 53
5-3 策定メンバー	… 55
5-4 策定委員会等記録	… 55

1. 「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」の基本目標

1-1 CMPの趣旨

キャンパスマスタープラン(CMP: Campus Master Plan)は、岐阜高専がその経営理念に基づき合意形成した、キャンパス空間の計画目標であり、継続的に実施されるキャンパス整備等と運営の拠りどころとなる指針である。

岐阜高専では、2013年5月に「キャンパスマスタープラン2013」を策定した。

岐阜高専のCMPは、岐阜高専の教育の目的・目標のため、また、第三期中期目標・中期計画(平成26年4月～平成31年3月)及び国立高専機構施設整備5か年計画(平成28～32年度)に対応した計画が必要である。

新たなCMPを策定するため、2016年8月に「キャンパスマスタープラン2013」の点検・見直しを策定した。

点検・見直しによる改善事項を踏まえた、「岐阜高専キャンパスマスタープラン2017」を策定する。

1-2 教育の目的・目標

○ 教育の基本方針

本校への多様な役割が期待される中であって、高等学校や大学とは異なる高等専門学校本来の魅力を一層高めるといふ使命に燃え、日本の産業構造の国際化ならびに高度化に伴う急速な変化に柔軟に対応できる学力や創造力に加えて、環境に配慮した人間性豊かで倫理観を備えた技術者を育成することが本校の教育方針であります。

教育理念、教育目標及びその具体的な内容は不断に改善し、計画的に教育・研究活動を実行しています。より具体的には、以下に示すような「教育理念」、「養成すべき人材像」及び「教育目標」を高く掲げ、教職員はその目標に向かって努力します。

○ 教育理念

- (1) 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。
- (2) 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
- (3) 情報化社会の最前線で活動すること。

○ 養成すべき人材像

科学技術に夢を託し、人類愛に目覚め国際性豊かで情報化社会の最前線で活躍する技術者

○ 教育目標

準学士課程

- (1) 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かな技術者の育成
- (2) 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- (3) 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- (4) 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- (5) 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

専攻科課程

- (1) 得意とする専門分野をさらに深めるとともに、異分野を理解し複数の分野にまたがった思考力を備えた技術者の育成
- (2) 社会の要求するテーマを創造的に調査・企画・設計・計画し、継続的に解析・実行・改善できる問題解決能力を備えた技術者の育成
- (3) 的確な日本語と国際的に通用するコミュニケーション能力を備えた技術者の育成
- (4) 先端情報技術を駆使して専門分野のプログラムを構築する能力を備えた技術者の育成
- (5) 多様でグローバルな視点の倫理的判断ができ、技術者の社会的責任を理解して地域貢献できる技術者の育成



1-3 第三期中期目標・中期計画、国立高専機構施設整備5か年計画

○ 第三期中期目標・中期計画(平成26年4月～平成31年3月)

独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標

(序文)
独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第29条の規定により、独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という。)が達成すべき業務運営に関する目標(以下「中期目標」という。)を定める。

(前文)
機構は、独立行政法人国立高等専門学校機構法(以下「機構法」という。)別表に掲げる各国立高等専門学校を設置すること等により、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする(機構法第3条)。
これまでも、国立高等専門学校は、ものづくりなど専門的な技術に興味や関心を持つ学生に対し、中学校卒業後の早い段階から、高度な専門知識を持つ教員によって、座学だけでなく実験・実習・実技等の体験的な学習を重視したきめ細やかな教育指導を行うことにより、製造業を始めとする産業界に創造力ある実践的技術者を継続的に送り出し、我が国のものづくり基盤の確立に大きな役割を担ってきた。特に、専攻科においては、特定の専門領域におけるより高度な知識・素養を身につけた実践的技術者の育成を行ってきた。また、卒業生の約4割が高等専門学校の教育で培われたものづくりの知識や技術を基礎として、より高度な知識と技術を修得するために進学している。
さらに、これまで蓄積してきた知的資産や技術的成果をもとに、生産現場における技術相談や共同研究など地域や産業界との連携への期待も高まっている。
このように国立高等専門学校にさまざまな役割が期待される中、15歳人口の急激な減少という状況の下で優れた入学者を確保するためには、5年一貫のゆとりある教育環境や家庭生活を含めた豊かな人間関係の構築などに加え、専門的かつ実践的な知識と世界水準の技術を有し、自律的、協働的、創造的な姿勢でグローバルな視野を持って社会の諸課題に立ち向かう、科学的思考を身につけた実践的、創造的技術者を養成することに、高等学校や大学とは異なる高等専門学校の本来の魅力を一層高めなければならぬ。
また、産業構造の変化、技術の高度化、少子化の進行、社会・産業・地域ニーズの変化等、社会状況の変化や「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(平成23年1月31日中央教育審議会答申)において、地域及び我が国全体のニーズを踏まえた新分野への展開等のための教育組織の充実等が求められていることを踏まえ、法人本部がその機能を発揮し、イニシアティブを取る必要がある。
こうした認識のもと、各国立高等専門学校が自主的・自律的な改革により多様に発展することを促しつつ、一方で法人本部が更にイニシアティブを発揮し、ガバナンスの強化を図ることにより、大学とは異なる高等教育機関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化するため、機構の中期目標を以下のとおりとする。

I 中期目標期間
中期目標期間は、平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間とする。

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
1 教育に関する目標
実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるといった高等学校や大学とは異なる特色ある教育課程を

独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画

文部科学大臣認可 平成26年3月31日

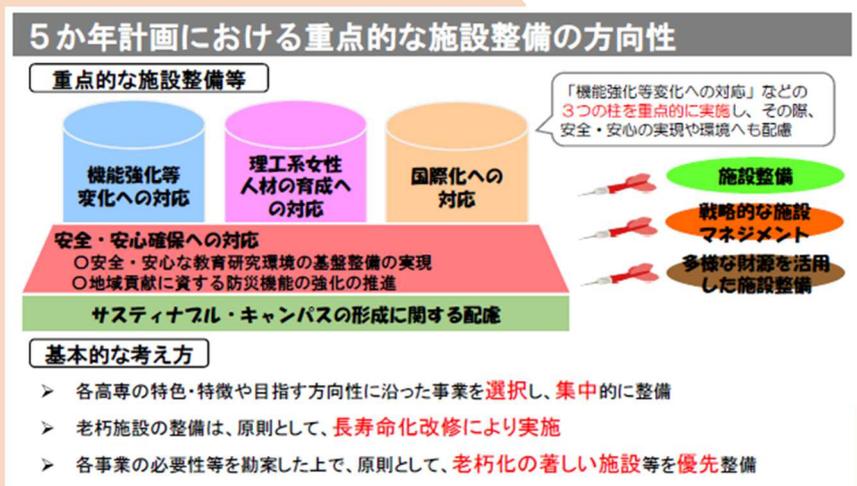
(序文)
独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第30条の規定により、独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という。)が中期目標を達成するための中期計画(以下「中期計画」という。)を次のとおり定める。

(基本方針)
国立高等専門学校は、中学校卒業後の早い段階から、座学だけでなく実験・実習・実技等の体験的な学習を重視したきめ細やかな教育指導を行うことにより、産業界に実践的技術者を継続的に送り出してきており、また、近年ではより高度な知識技術を修得するために4割を超える卒業生が進学している。
さらに、これまで蓄積してきた知的資産や技術的成果をもとに、生産現場における技術相談や共同研究など地域や産業界との連携への期待も高まっている。
このように国立高等専門学校にさまざまな役割が期待される中、高等学校や大学とは異なる高等専門学校の本来の魅力を一層高めなければならぬ。また、法人本部がその機能を発揮し、イニシアティブを取る必要がある。
こうした認識のもと、大学とは異なる高等教育機関としての国立高等専門学校固有の機能を充実強化することを基本方針とし、中期目標を達成するための中期計画を以下のとおりとする。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置
1 教育に関する事項
機構の設置する各国立高等専門学校において、別表に掲げる学科を設け、所定の収容定員の学生を対象として、高等学校や大学の教育課程とは異なり中学校卒業後の早い段階から実験・実習・実技等の体験的な学習を重視した教育を行い、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせるため、以下の観点に基づき高等専門学校の教育実施体制を整備する。

(1) 入学者の確保
① 中学校長や中学校 PTA などの全国的な組織への広報活動を行うとともに、メディア等を通じた積極的な広報を行う。
② 中学生が国立高等専門学校の学習内容を体験できるような入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等を充実させ、特に女子学生の志願者確保に向けた取り組みを推

○ 国立高専機構施設整備5か年計画(平成28～32年度)



1-4 CMPの基本方針、整備方針

□ グローバル高専に対応したキャンパス環境整備の充実 (国立高専の使命を果たす基盤となる施設の整備充実)

「20年後の岐阜高専キャンパス」を具現化するために、「キャンパスの現状と課題」を踏まえ、長期的視点に立ち、高専機構5か年計画を反映した施設整備の基本方針、整備方針を次のとおり掲げる。

※「高専機構5か年計画(平成28年度～平成32年度)」(重点的な施設整備の方向性)

- 機能強化等変化への対応、● 理工系女性人材の育成への対応、● 国際化への対応、○ 安全・安心確保への対応、○ サステナブル・キャンパスの形成に関する配慮

● 国際化に対応した岐阜高専

- ・ グローバル高専拠点校として、東海・北陸・近畿各高専の持つリソースの共有化、国際交流の共同運営、コンソーシアムの形成のため、他の高専と共同して使用できるスペースを整備
- ・ 海外からの教員・学生が岐阜高専で研修を受けるための拠点施設を整備
- ・ 優秀な留学生を受け入れ、日本人学生へのグローバル人材育成を行うため、シェアハウス型の寄宿舍等を整備

● 機能強化等変化に対応した岐阜高専

- ・ 新たな高専教育システムに対応するために、既存施設をアクティブ・ラーニング仕様に転換
- ・ 地域貢献や企業との連携を加速化させるため、体験重視型教育や社会実装教育の拠点となる共同実験室等の現代化を推進
- ・ 情報集積拠点である図書館等の機能強化を推進

● 理工系女性人材の育成に対応した岐阜高専

- ・ 理工系女性がイキイキとし、居心地のよい環境を整備
- ・ 必要に応じて女子寮にラーニングcommonsを配置する等教育寮としての効果を発揮できる環境を整備

1-5 CMPの活用方針

○ 施設の有効活用の方向

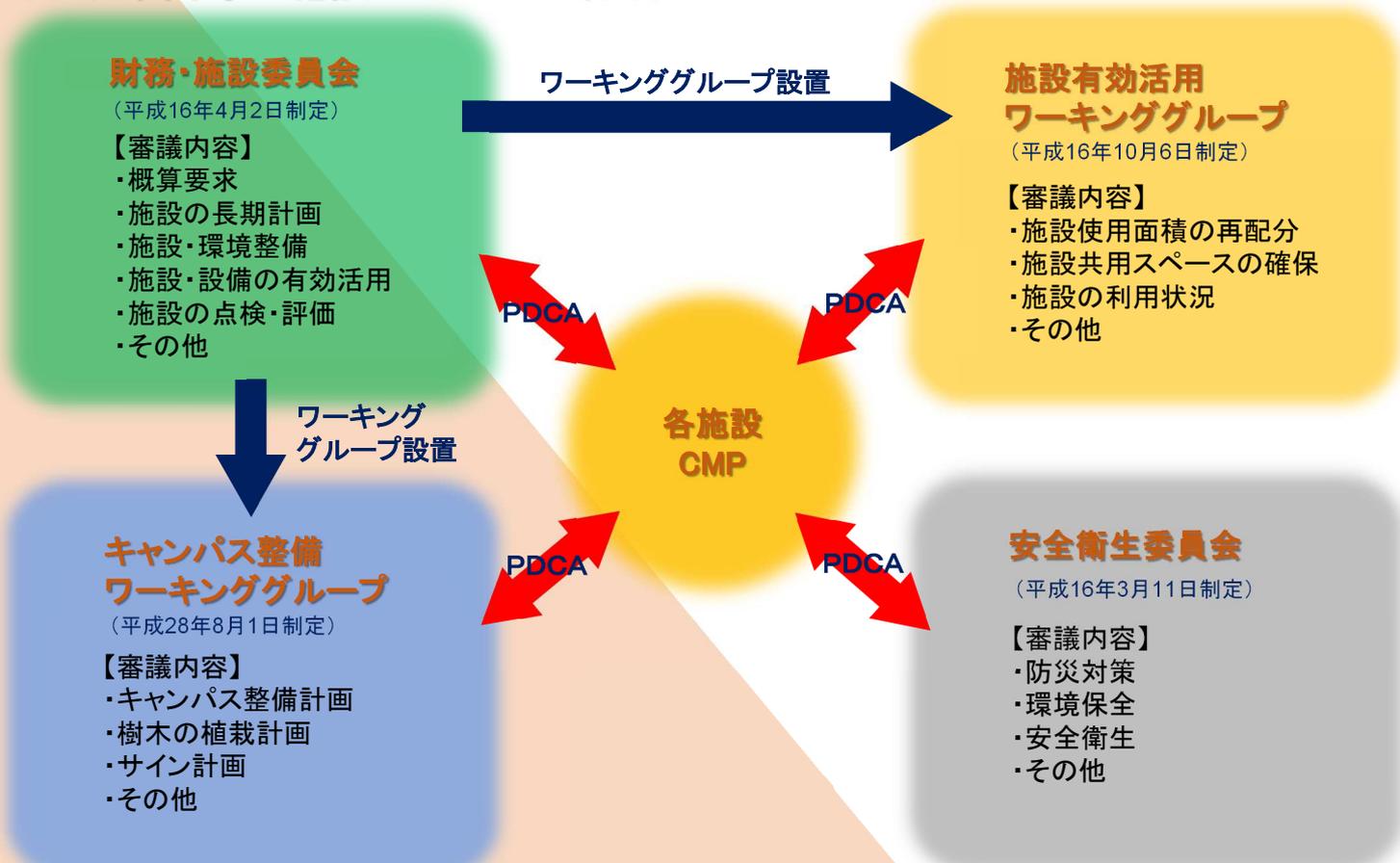
- ・ 施設の有効活用により、施設の利用状況を調査し、学内のスペースを有効利用し、また、必要なスペースを確保する。
- ・ 学科の使用面積、講座等の使用面積、学生(1人あたり)の使用面積などを調査し、面積の再配分を視野に入れた施設利用状況調査を実施する。

○ 土地の有効活用の方向

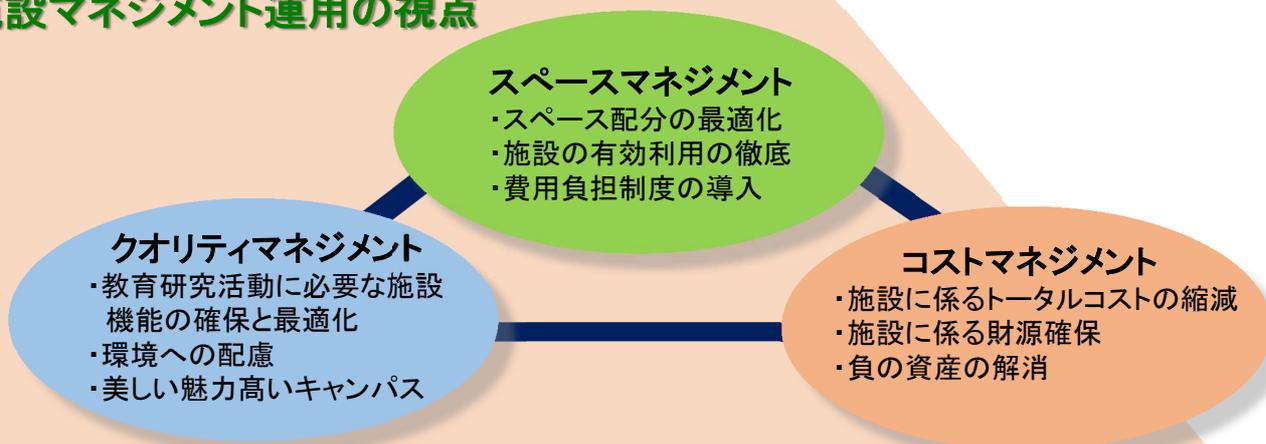
- ・ 土地の利用形態の見直しを行い、高専全体の財産として必要な用途に充当するなど土地の有効活用を図る。職員居住エリアの老朽化が著しく建築後50年が経過した木造職員宿舎13棟を取壊し、用途(ゾーニング)を防災拠点エリアに見直しを行う。防災拠点エリアには多文化交流棟(防災拠点集会所)、防災広場、多目的コート等を整備し、留学生交流関連情報の発信機能を備えた国際交流活動の場、防災教育及び防災拠点の場、岐阜高専と地域住民との相互理解(共同利用)を促進する場(スポーツ交流の場)を整備し、土地の有効活用を図る。

1-6 施設マネジメント

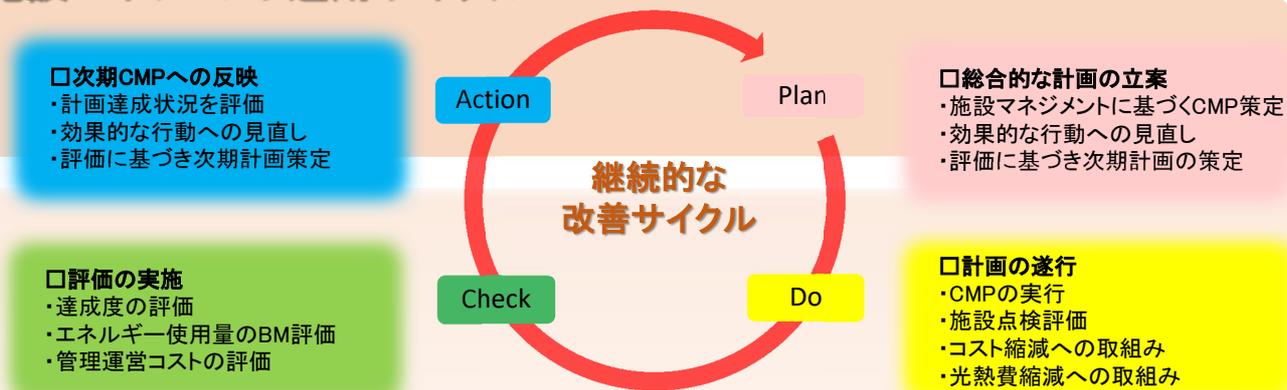
○ 岐阜高専の施設マネジメント体制



○ 施設マネジメント運用の視点



○ 施設マネジメント運用サイクル



2. 岐阜高専キャンパスの概要

2-1 国立高等専門学校機構の概要

国立高等専門学校機構は昭和36年、我が国の経済高度成長を背景に、産業界からの強い要望に応えるため、実践的技術者の養成を目指し、中学校卒業者を入学資格とする5年制の高等教育機関として学校教育法の改正により、工業に関する高等専門学校を制度化したことに始まりました。

翌昭和37年以降、順次各地に高等専門学校の設置を進め、現在全国に51高専(55キャンパス)を設置しています。



2-2 岐阜工業高等専門学校の概要

岐阜工業高等専門学校は、昭和38年4月に、機械工学科、電気工学科及び土木工学科の3学科を専門学科とする国立の5年制高等教育機関として設置されました。昭和43年には建築学科が、昭和63年には電子制御工学科が増設され5つの専門学科を持った学校として整備・拡充されました。さらに、社会の進歩や変革に見合った教育課程の改革を行うために、平成5年には土木工学科が環境都市工学科に改組され、平成12年には電気工学科が電気情報工学科に改組されました。

また、高専教育の一層の高度化を目指して、平成7年には学士の取得が可能な修業年限2年の専攻科が設置されました。専攻科は平成28年度に従来の2専攻(電子システム工学専攻、建設工学専攻)を融合した1専攻(先端融合開発専攻)に改組されました。



独立行政法人 国立高等専門学校機構
岐阜工業高等専門学校
National Institute of Technology, Gifu College



未来の自分を形に
岐阜工業高等専門学校

■ 2-3 岐阜高専キャンパス

- 敷地面積：106,936 m²
- 建物延面積：34,861 m²
(建築面積：17,350 m²)
- 容積率：32.6 %
(建ぺい率：16.2 %)
- 所在地：岐阜県本巣市上真桑
2236-2

- 学生数：1,138 人
(本科 1,070人、専攻科 68人)
※本科定員：200人
※専攻科定員：20人
※外国人留学生数：10 人

□ 教職員数：122人

□ 学生寮収容人員：331人

[平成29年5月1日現在]



現状の岐阜高専キャンパス (H28.08撮影)

3. キャンパスの点検・見直しと今後の計画

3-1 「キャンパスマスタープラン2013」点検・見直しの実施

岐阜高専では2012年度にキャンパス整備ワーキンググループ及び財務・施設委員会にて審議を重ね、2013年5月に「キャンパスマスタープラン2013」を策定した。

「キャンパスマスタープラン2013」点検・見直しは、2016年6月から点検・見直しのための作業を行い、8月にキャンパス整備ワーキンググループにて点検・見直しの審議を行い、改善事項を整理し、「キャンパスマスタープラン2013」の点検・見直しを策定した。



3-2 点検・見直しによる達成内容と今後の計画

○ 行動計画: 動線計画に基づいた「メインロード」の整備

達成内容: ①H23. 玄関ホールを整備(給湯室・総合案内サイン整備共)

②H24. 1階渡り廊下棟部分の部屋等を移設しリフレッシュコーナー(フロインデ・ホール)を創出

③H24. 施設整備費補助金にて校舎改修(機械工学科系)を実施

④H27. 施設整備費補助金にて校舎改修(環境都市工学科系)を実施

今後の計画: 一般教室棟廊下等改修、4号館内外部全面改修、3号館と4号館間渡り廊下改修を計画

○ 行動計画: 動線計画に基づいた「いぶきストリート」の整備

達成内容: ①H24. 施設整備費補助金にて校舎改修(機械工学科系)の外構整備を実施し、「いぶきストリート」の東側にウッドデッキを整備

②50周年記念碑の建立及び記念樹の新植に伴う整備を実施

今後の計画: 福利施設(いぶき)北側(「いぶきストリート」の西側)等にウッドデッキ等整備を計画

■ 3-3 「キャンパスマスタープラン2013」期間中の施設整備



2号館(環境都市工学科校舎等) 竣工(改修):2016.2/規模:地上3階 1,792㎡
 教育研究の高度化・多様化への対応、共同研究・受託研究への取り組みの推進等を目的とし、老朽施設の機能改善・充実を図る施設として、2号館の大規模改修(環境都市工学科校舎:内外部改修、電気情報工学科校舎:外部改修)を実施



第一体育館 竣工(改修):2016.3/規模:地上2階 1,400㎡
 学生・教職員等の屋内運動場及び地域住民等の避難場所としての安全と安心を十分に確保し、非構造部材耐震対策を推進した老朽屋内運動場の改善を行う施設として、第一体育館の大規模改修を実施



武道場 竣工(改修):2016.3/規模:地上1階 270㎡
 非構造部材(吊り天井:膜天井、照明器具:LED)の耐震改修を実施(避難場所として使用)



外観(増築後)

1号館増築棟(エレベーター棟)

竣工:2016.1/規模:地上3階 44㎡

多様な利用者が安全かつ円滑にキャンパスを利用できる施設として、岐阜高専1号機目となるエレベーターを1号館に新設



外観(増築後)

5号館増築棟(エレベーター棟)

竣工:2017.2/規模:地上4階 63㎡

多様な利用者が安全かつ円滑に5号館(キャンパス)を利用できる施設として、岐阜高専2号機目となるエレベーターを新設し、既設棟バリアフリー改修を実施



第6キュービクル更新(改修後)



第6キュービクル更新(改修前)



受変電キュービクル新設

受変電設備 竣工(改修): 2015.1, 2016.1

老朽化した受変電設備再生整備として、受変電設備改修Ⅲ期計画のうち「Ⅰ期・Ⅱ期」を実施



高圧配線更新



3号館(機械工学科校舎) 竣工(改修):2013.9/規模:地上3階 1,780㎡
 教育研究の高度化・多様化への対応、共同研究・受託研究への取り組みの推進等を目的とし、老朽施設の機能改善・充実を図る施設として、3号館(機械工学科校舎)の大規模改修(内外部改修)を実施



福利施設(食堂) 竣工(改修):2014.9/規模:地上2階 163㎡
 福利施設食堂を内外の研究会・集会のレセプションホールとしても使えるよう内部改修を実施
 創立50周年記念事業の寄付金等による施設の整備



渡り廊下棟(フロインデ・ホール) 竣工(改修):2013.3/規模:地上3階 109㎡
 1階渡り廊下棟部分の部屋等を移設し、リフレッシュコーナー(フロインデ・ホール)の内部改修を実施

3-4 キャンパスに関するアンケートの実施結果等

建築学科学生の卒業研究により、学校環境の意識調査を行い、学習環境の向上と施設の有効活用を図るための施設整備の方向性を明らかにすることを目的として、岐阜高専でアンケート調査を実施した。

調査対象は、平成28年11月現在の教職員、学生で対象者1,179名、回答者227名、回答率19.3%であった。調査方法はインターネットを用いたウェブアンケートで、調査期間は平成28年度12月12日(月)～平成29年1月18日(水)である。

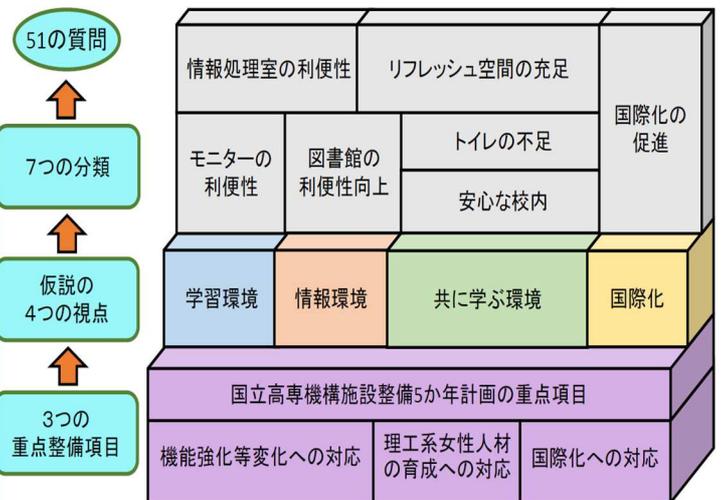
アンケートの実施結果の概要を次のとおり掲げる。

① アンケートの目的

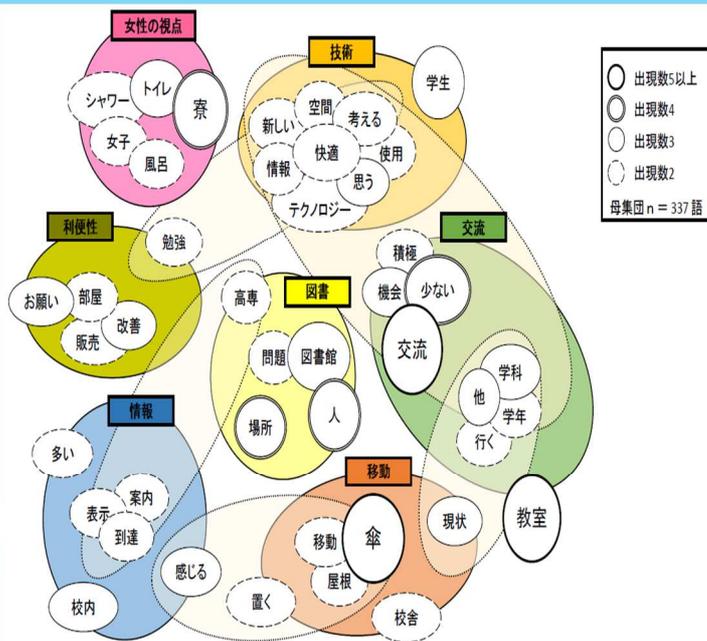
学校環境における意識調査を行い、学習環境の向上と施設の有効活用を図るための具体的な施設整備の方向性を明らかとすること。⇨ **岐阜高専でアンケート調査を実施する**

調査期間	平成28年度12月12日(月)～平成29年1月18日(水)																	
調査方法	インターネットを用いたウェブアンケート																	
周知方法	メールによる周知を平成28年度12月12日(月)、平成29年度1月11日(水)の2度実施																	
回収率	調査対象者1179名、回答者227名、回収率19.3%																	
調査対象	学年	1			2			3			4			5			総計	
	性別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
	A	13	27	40	17	16	33	17	10	27	12	8	20	18	7	25		145
	C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5	1	6		7
	D	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3	0	3	5	0	5		9
	E	4	0	4	3	0	3	2	0	2	0	0	0	8	1	9		18
	M	0	0	0	2	0	2	5	0	5	5	0	5	4	0	4		16
小計	17	27	44	23	16	39	24	10	34	21	8	29	40	9	49	195		
専攻科1名、教職員19名、無記名2名 総計227名																		

② アンケートの仮説構成図



③ 自由記述にみる整備要求の関係性



樋口耕一、2004、「テキスト型データの計量的分析—2つのアプローチの峻別と統合」『理論と方法』19(1):101-115.

④ アンケートに基づく整備の方向性



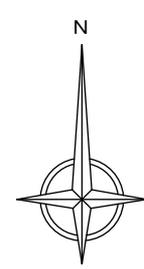
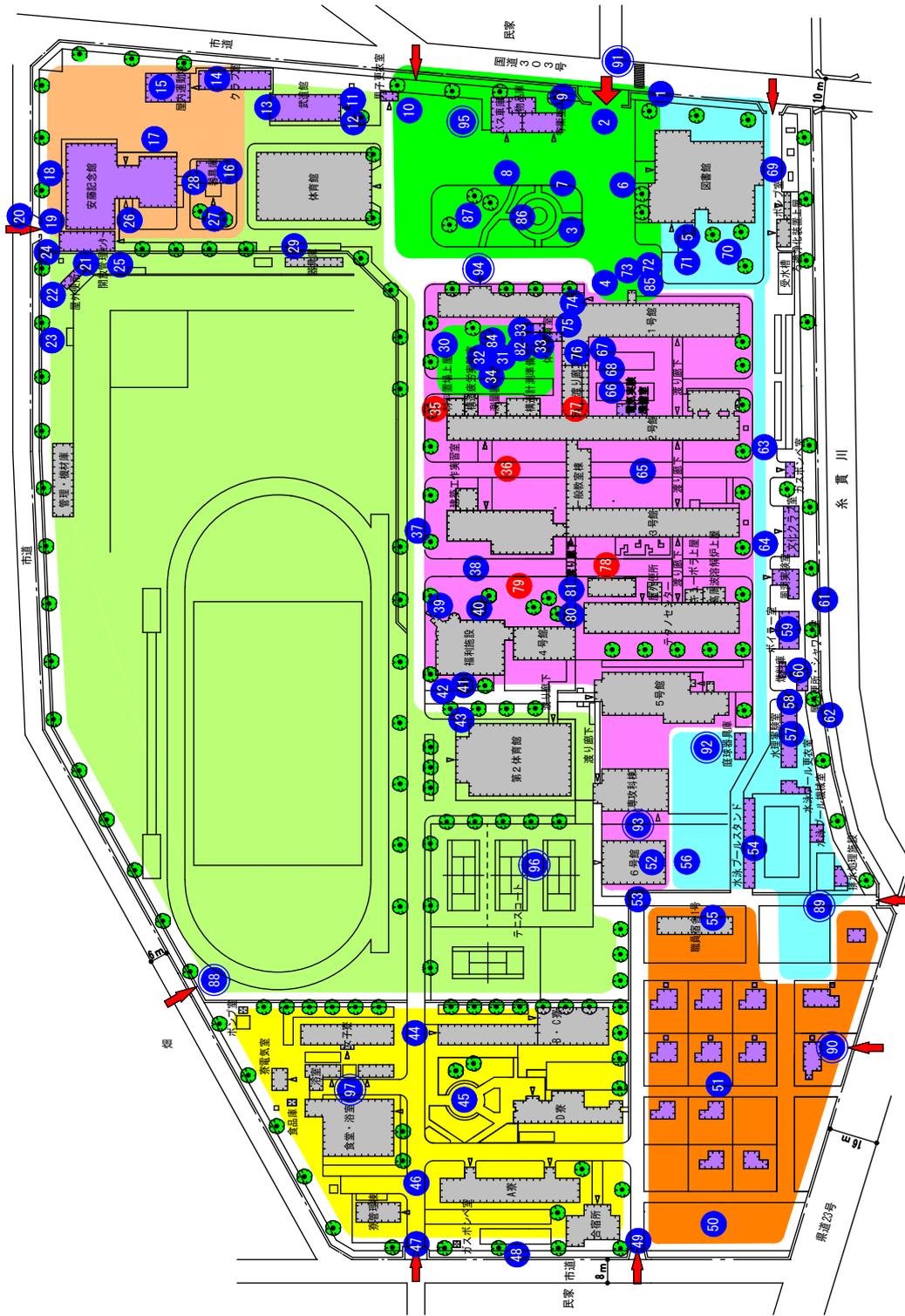
4. キャンパス計画

「20年後のキャンパス」を目指して！

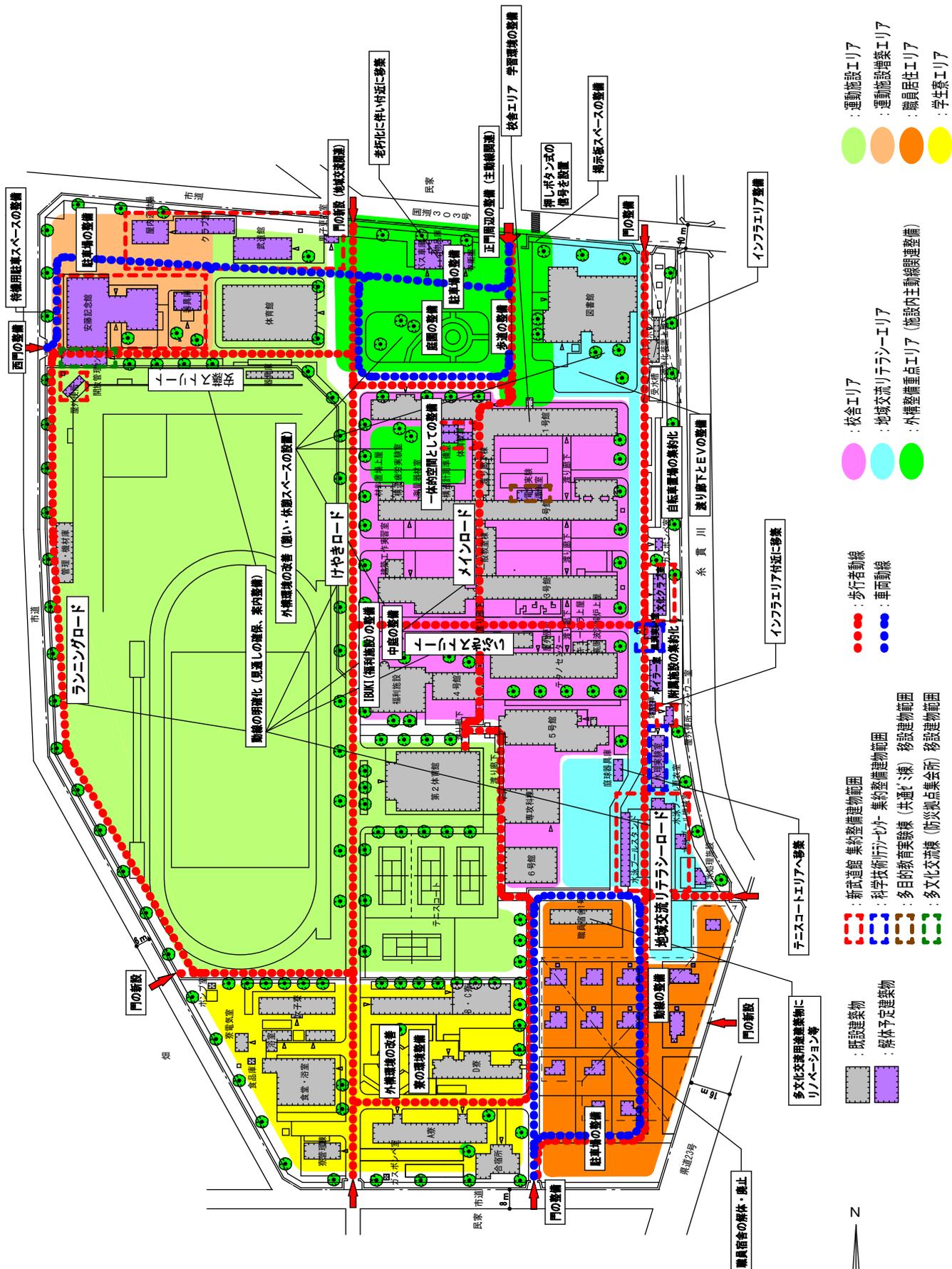
現状の岐阜高専キャンパス (H28.08撮影)

20年後の岐阜高専キャンパス

4-1 配置計画1 (キャンパスの現状把握と課題の抽出)



- : 既設建築物
- : 解体予定建築物
- : 校舎エリア
- : 地域交流リソースエリア
- : 外構整備重点エリア (施設内主動線環境整備)
- : 運動施設エリア
- : 運動施設増築エリア
- : 職員居住エリア
- : 学生寮エリア
- : 1 : 課題抽出ポイント
- : 88 : 新たな課題抽出ポイント
- : 95 : 課題解決済抽出ポイント



- : 運動施設エリア
- : 運動施設増築エリア
- : 職員居住エリア
- : 学生エリア

- : 校舎エリア
- : 地域交流リテラシーエリア
- : 外構整備重点エリア (施設内主動線調整)

- : 歩行者動線
- : 車両動線

- : 新武道館 集約整備建物範囲
- : 科学技術リテラシー 集約整備建物範囲
- : 目的教育実験棟 (共通棟) 移設建物範囲
- : 文化交流棟 (防災拠点集会所) 移設建物範囲

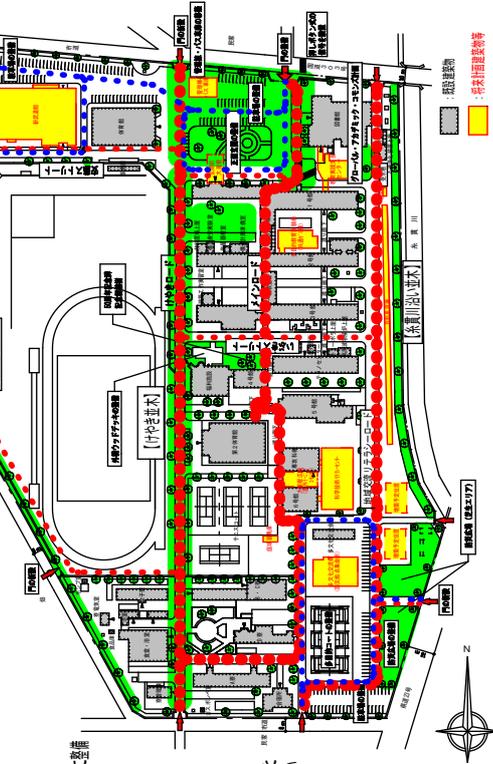
- : 既設建築物
- : 解体予定建築物



4-5 詳細計画2 (②パブリックスペース計画 ~ ⑥インフラストラクチャー計画)

②パブリックスペース計画

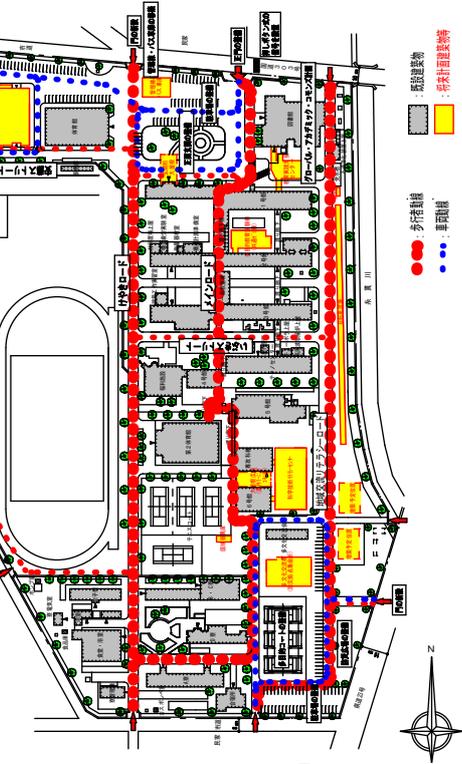
・地域景観との調和とキャンパス内の緑化の推進の観点から、3本のグリーンベルトを活かした整備を行う。
 ・つつろぎと憩いの場所としての庭園・中庭等の整備と、防災広場（芝生エリア）、防災広場（芝生エリア）、防災広場（芝生エリア）の大規模改修等による外構整備を行う。



[けやき並木]
 ・キャンパスのシンボルとして、車道ではなくキャンパスロード側への場所となるよう整備
 [西遊道緑地]
 ・キャンパス東部を走る各棟の景観をよきし、自然環境を保全する
 [けやき並木]
 ・地景観の配慮と共に、グラウンド側に設けたランニングロードとの一体感によりゆとりと潤いのある空間を創る
 [キャンパスの緑地(保全)整備計画]
 ・P.19参照
 [芝生・自然環境計画]
 ・P.19参照

③動線計画

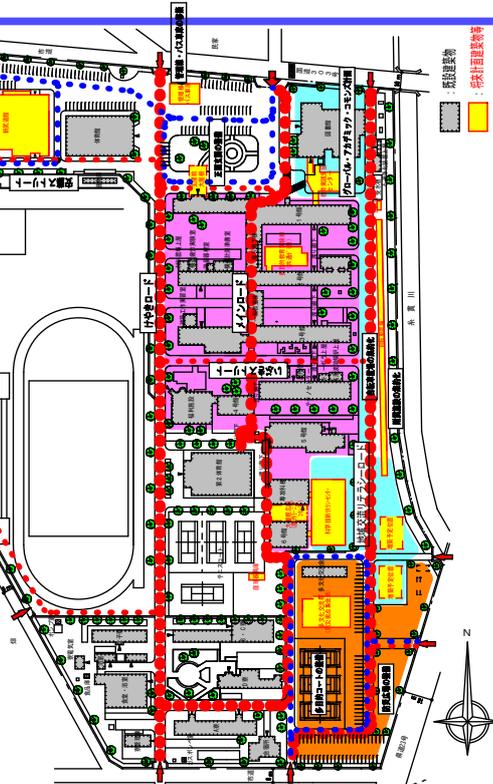
「グローバル専専に対応したキャンパス環境整備の充実」を目標に、主動線の明確化を図る。
 正門・正面玄関周辺の整備と共に、内部通路の「メインロード」を軸に、外部通路の「けやきロード」と「地域交流リテラシーロード」を加えた3本の主動線の整備を行う。



[メインロード]
 ・外周を走る内部通路として、まぎやく、分りやく、気持ちよく目的地まで導くように整備
 [けやきロード]
 ・けやき並木が、北門(新設)から南門まで一直線に伸びることで、地域交流のための外部通路を創る
 [地域交流リテラシーロード]
 ・西遊道から西門、理学部(新設)から西門(新設)までを結ぶ外部通路を創る
 [景観にやさしい移動環境]
 ・車道と歩道を明確に区別し、車道側通行を妨げず安全に配慮した計画としている。

④建物配置計画、⑤環境・建築計画

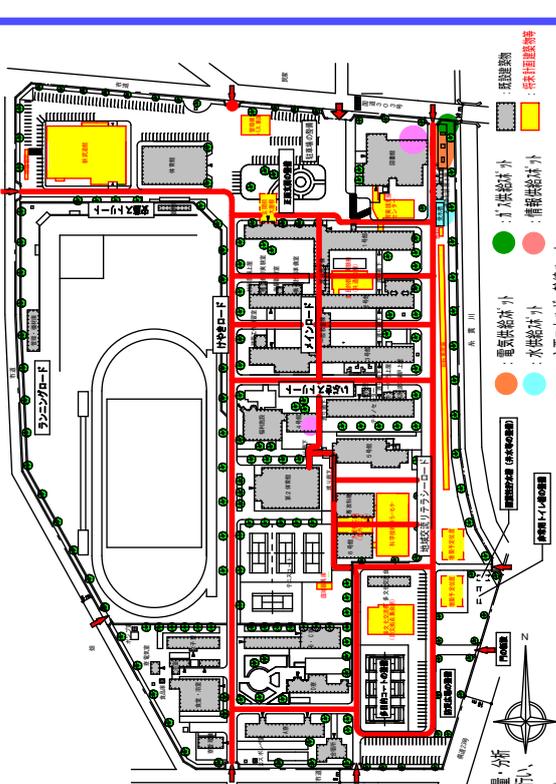
・教育・研究の利便性・機能性の観点における建物群の集約化、将来の拡張を想定した用地の確保、キャンパス内の通風や日照、自然環境特性を活用したサステイナブルな建築計画とする。



[研究・教育ゾーンの集約化]
 ・教職・事務の中心となる教育エリアと、グローバル拠点・地域産業との連携を促す地域交流リテラシーセンターエリア、地域文化や国際交流活動の場となる多文化交流を促すエリアを、敷地を有効活用する「メインロード」に沿って集約配置する建築計画とした。
 [緑地を繋ぎながらのグリーンベルトの活用]
 ・系列別、動中、静中、静中、静中、静中を南北に繋ぎながらのグリーンベルトを、強い通風の確保、日照の確保、系列別利用の確保の観点から活用する。
 [共同利用施設・設備の集約配置]
 ・共有スペース等の標準化により、スペース配分・維持管理、コスト削減等を図る。
 各学科の別々な建物等を整理し、施設の集約化を図る。

⑥インフラストラクチャー計画

・効果的、効率的な維持管理と運用を行うために、エネルギー供給・処理施設の集約配置、エネルギー幹線ルートの見直しや維持保全の省力化を図る。太陽光発電など自然エネルギーの有効利用について、積極的に推進を図る。



[エネルギー供給・処理施設の集約配置]
 ・エネルギー供給・処理施設の集約配置を基に計画する。
 ・排気処理施設を確保し、排気処理施設の共同化を図る計画とする。
 [エネルギー幹線ルートの再整備]
 ・系統が高圧・維持管理に課題となるエネルギー幹線ルートを再整備する。
 自然エネルギーの有効活用
 ・多文化交流センターとして自然エネルギーを、災害時にも稼働可能なゼロ・エネルギー・ビル(仮称)として整備する。
 太陽光発電の導入
 ・各棟の屋根から採光に合わせた太陽光発電システムを導入し、エネルギー消費の削減を図る。
 エネルギーの透明化
 ・必要に応じて各棟へのエネルギー消費量を把握できる計測器を設置する。
 ・オープンラボの研究成果を、エネルギー消費の削減を図る。システム等の導入によりエネルギー消費の削減を図る。エネルギー消費削減への移行を促す計画とする。

■ 4-5 詳細計画 2(②パブリックスペース計画～⑥インフラストラクチャー計画)

②パブリックスペース計画

□ キャンパスの美観：美しく統一感のあるキャンパス形成に向けて

- ・第4次5か年計画(施設整備費補助事業、多様な財源を活用した施設整備等)による新築・改築・大規模改修、学内経費等による修繕・整備の実施により、外壁、屋上防水、外構等の美しく統一感のある景観やパブリックスペースの創出を目指す。
- ・外壁、屋上防水等建物外観の素材、色彩、形態等は、現況を考慮した上である範囲で統一し、新築・改築・大規模改修後のキャンパス全体を調和させて統一感を創出する。
- ・新築・改築等では、日射負荷低減を意識し、建物配置は南北に開口部が広がるように考慮し、ルーバー等を積極的に採用し、直射日光の進入をコントロールする外観とする。
- ・外構整備重点エリア、図書館等の開放性・公共性の高い施設や周りでは、積極的にパブリックスペースを整備する。1号館玄関ホールと1・2号館間の外構整備重点エリアは、パブリックスペースが内外空間で連続するように計画する。
- ・ベンチやテーブル等の備品や日除けテント等の配置、照明演出、植栽等が一体的空間となる整備を行う。
- ・歩道等は、インターロッキングブロックや遮熱カラー塗装による舗装等材料を積極的に使用する。

□ 緑地(保全)整備計画

- ・第4次5か年計画(施設整備費補助事業、多様な財源を活用した施設整備等)による新築・改築・大規模改修に伴い整備される屋外パブリックスペースへの積極的な緑化や、予算に応じて屋上緑化を視野に入れ、樹木維持管理等を考慮した緑地整備を計画的に行う。
- ・糸貫川(下流)でもホタルが観賞でき、構内ではタヌキ等の哺乳類、ツグミ、カワラヒワ、ヒヨドリ等の20種の野鳥等、多様な生物が確認されている。緑地整備や日常の樹木維持管理等においては、自然環境への影響を抑制すると共に、生物による学生の安全管理等に配慮する。
- ・総務課により実施している学内環境の維持(日常の樹木維持管理等)は、計画的に実施し、キャンパス内の統一感のある景観を創出する。
- ・教職員、学生等がキャンパスに愛着を持ち、自らが緑地等の維持管理に携わる取組(清掃の日)を引き続き実施し、環境保全に努める。



撮影できた野鳥(ツグミ)



庭園のしだれ桜

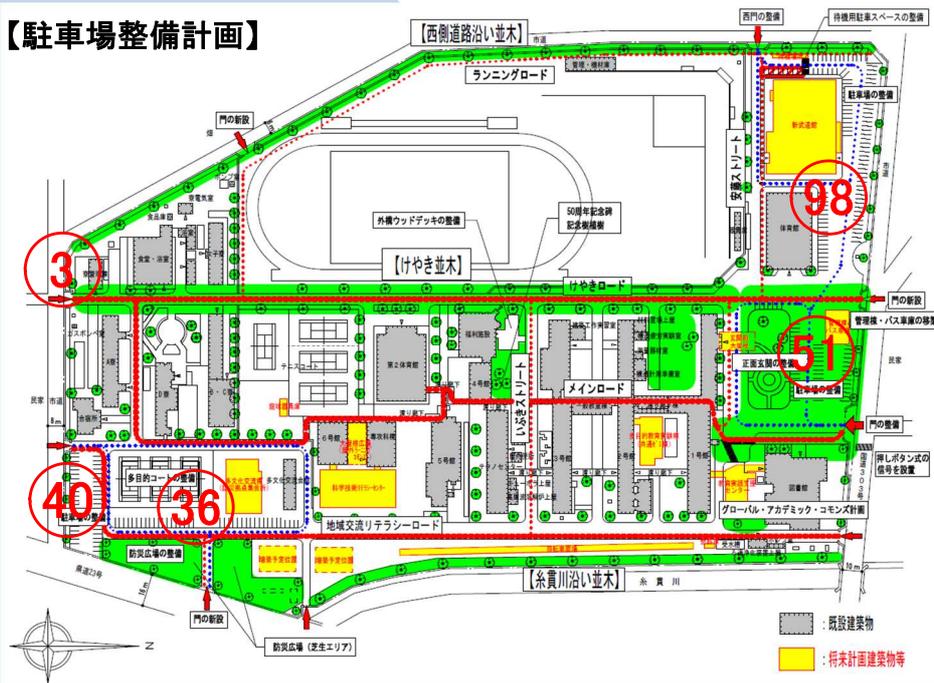


けやきロードの櫟等

□ 駐車場・自転車置場計画

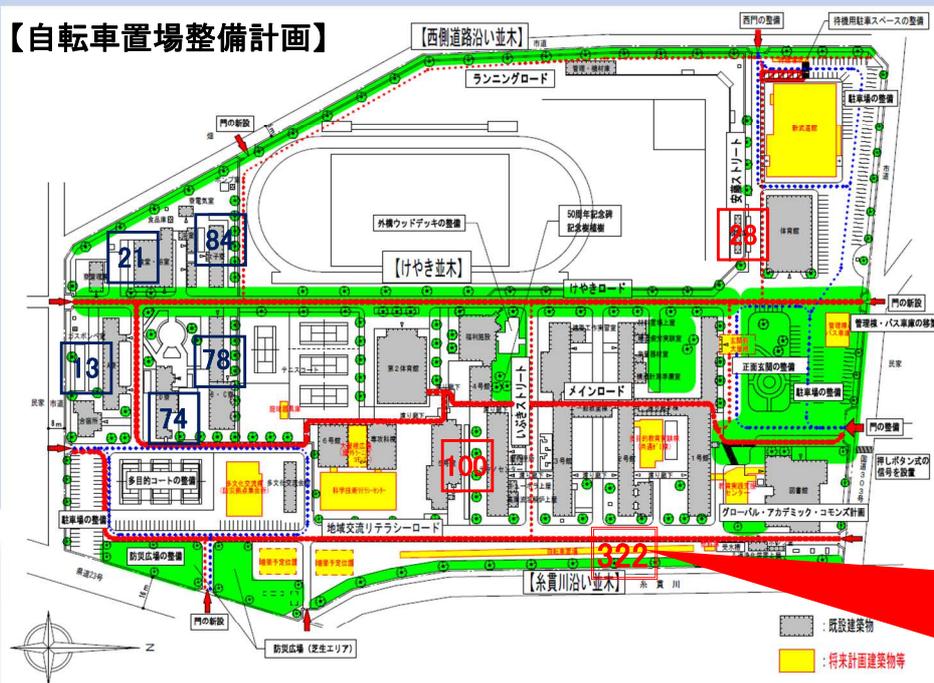
・岐阜高専キャンパスは、鉄道、市バス等公共交通機関の本数が少ない等の地域に立地しており、車や自転車等でのアクセスが多い。今後、産学連携推進等に伴い、企業等の車でのアクセスが増加する。「20年後のキャンパス」では、わかりやすく、美しいキャンパスをつくる上で、駐車場の整備、自転車置場の集約化が重要となる。キャンパス周辺の環境との関係を考慮し、わかりやすい主要な出入り口となる「門」を整備・新設する。西門付近に、学生の送迎用として車を利用した保護者等の待機用駐車スペースを整備する。防災拠点エリアの駐車場整備は、外部資金の活用も含めた駐車場整備計画を進める。現状の自転車置場は、駐輪スペースが不足し、隣接した建物等との間にゴミが溜まる問題がある。駐輪スペースを確保するため、糸貫川沿いの付属施設集約化によるスペースを活用し、自転車置場の集約化を進め、キャンパス景観の向上を図る。岐阜県産の木材に塗装を行い、間伐材丸太等を組み合わせた駐輪場を計画し、学生が授業等で製作できるように整備計画を行う。

【駐車場整備計画】



98 : 将来駐車可能台数
 合計: 228台
 ※現状合計: 188台

【自転車置場整備計画】



※将来駐輪可能台数
 合計: 720台
 ※現状合計: 669台

○校舎地区計画台数 合計: 450台

322 : 集約(改築)後 322台
 ※現状集約前 271台

100 : 老朽改修 128台

○寄宿舎地区計画台数 合計: 270台

84 : 老朽改修 270台



4-7 第4次5か年計画表

□「高専機構5か年計画(平成28年度～平成32年度)」との整合 (「重点的な施設整備の方向性」との整合)

- ①：機能強化等変化への対応、②：理工系女性人材の育成への対応、③：国際化への対応、
④：安全・安心確保への対応、⑤：サステナブル・キャンパスの形成に関する配慮

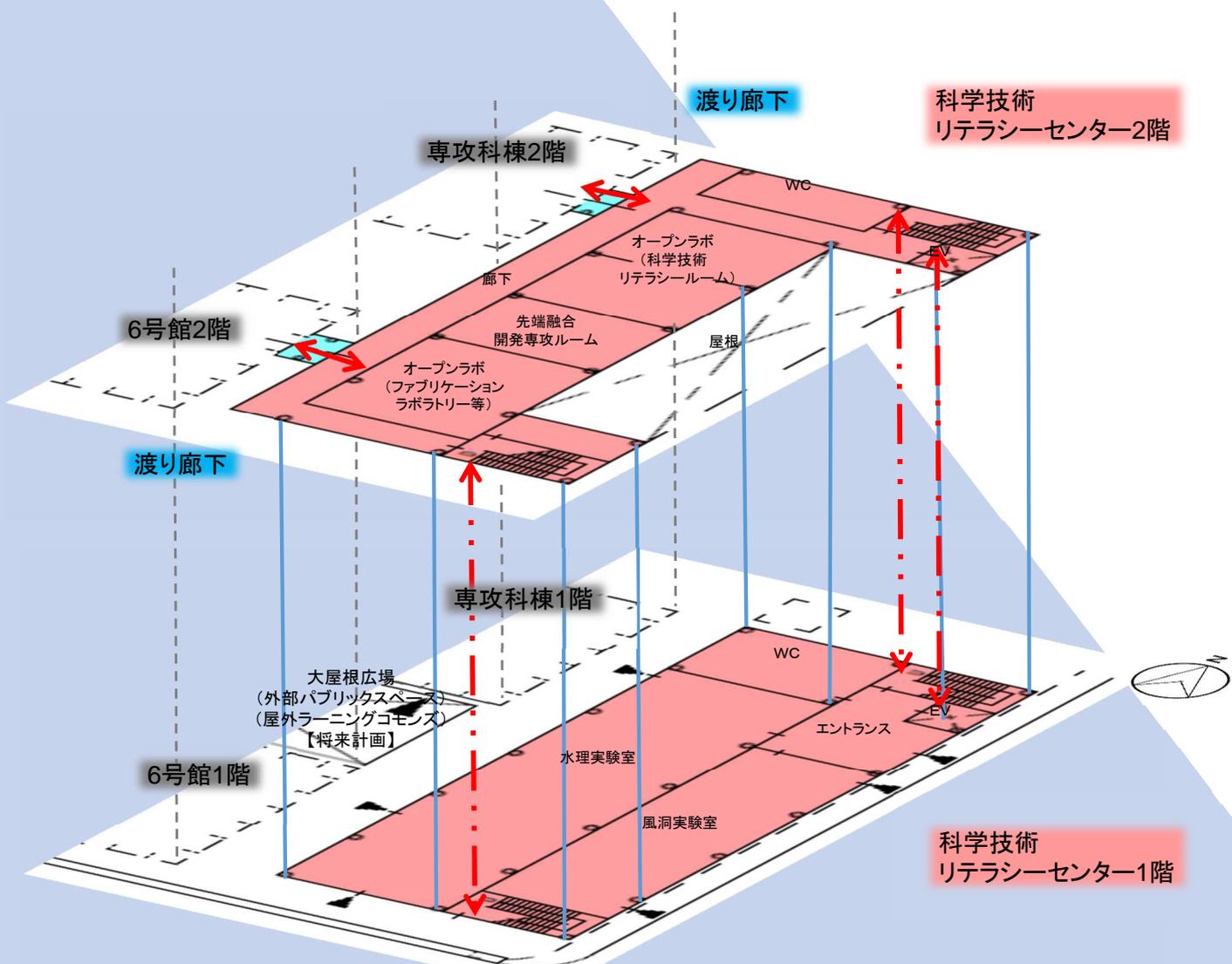
年次計画表

事業名	整備理由	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度～平成37年度		備考
		面積		面積		面積		面積		面積		
		新営	改修	新営	改修	新営	改修	新営	改修	新営	改修	
		m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	
校舎改修(建築学系)	改修				(1,680)							(120)3号館・S41・R3、内外装 ①②④⑤
ライフライン再生(排水設備等)2-1	更新	0	(0)	※平成29年度施設整備費補助事業								排水・給水・舗装等の再生(I期) ④
グローバル・アカデミック・commons 教育実践支援センター 新営	新築			690								S3、渡り廊下新築共 ①③④⑤
図書館改修	改修				(1,910)							(520)図書館・S47・R2、内外装 ①③④⑤
ライフライン再生(排水設備等)2-2	更新			0	(0)							排水・給水・舗装等の再生(II期) ④
校舎改修(1号館・ 学科事務室棟)	改修					(2,360)						(070)1号館・S39・R3、内外装 (820)学科事務室棟・S57・S3、 内外装 ①③④⑤
寄宿舎女子寮・寮 管理棟改修	改修					(940)						(240)寮管理棟・S44・R2、内外装 (270)女子寮・S40・R3、内外装 ②④⑤
多文化交流棟(防災 拠点集会所)新営	新築							1,050				木造職員宿舎13棟取壊共 ③④⑤
寄宿舎B寮改修	改修								(900)			(300)B・C寮・S41・R3、内外装 ③④⑤
科学技術リテラシー センター新営	新築									1,070		S3、渡り廊下新築共
多目的教育実験棟 (共通ゼミ棟)新営	新築									640		S3、渡り廊下新築共
校舎改修(4号館・ 福利施設)	改修									(1,490)		(810)4号館・S56・R3、内外装 (850)福利施設・S60・R2、内外装
第二体育館改修	改修									(880)		(790)第二体育館・S55・R1、 内外装
校舎改修(5号館)	改修									(2,260)		(880)5号館・H2・R4、内外装
寄宿舎D寮改修	改修									(1,380)		(910)D寮・H6・R5、内外装

4-8 将来計画建物

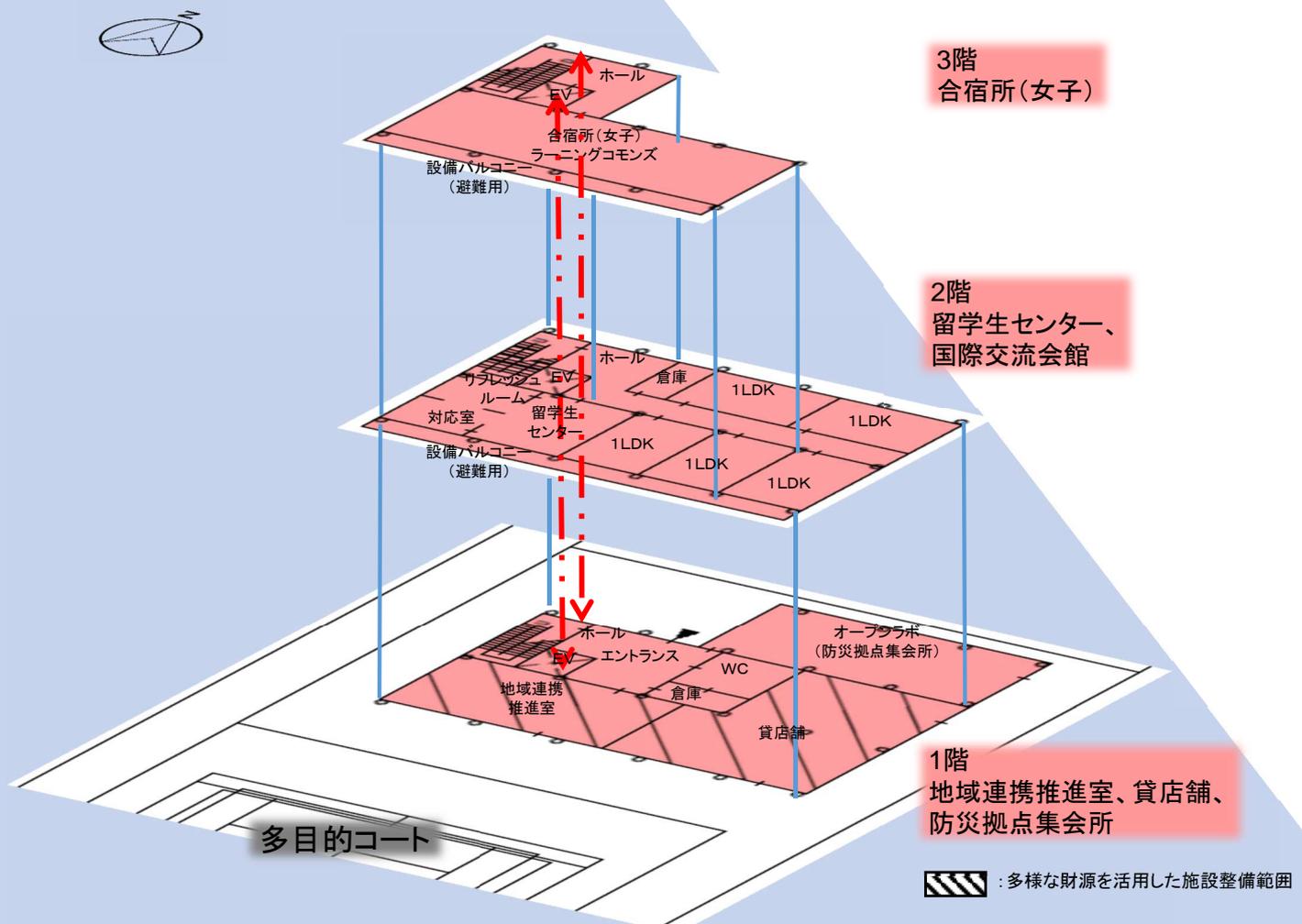
□ 科学技術リテラシーセンター [構造・階、面積 : S2、1,070㎡]

- ・地域社会を対象にした「科学技術リテラシー教育」、岐阜高専OBの力を借りた地元企業技術者の学び直しを支援する「中核人材育成塾」は、受講者の評判が高く、外部機関からも平成21年度および平成23年度日本工学教育協会賞業績賞、平成21年度野依科学奨励賞を授与され、教育プログラムとして高く評価されている。
- ・地域の教育センターとしての機能を、新たな「科学技術リテラシーセンター」として設置し、2階にオープンラボ(科学技術リテラシールーム)を整備する。
- ・専攻科棟2階とリテラシーセンター2階を接続させ、リテラシーセンター2階に専攻科生の教育スペース(先端融合開発専攻ルーム)を整備する。また、6号館2階にも接続させ、6号館からもアクセスできる計画とする。
- ・リテラシーセンター2階にオープンラボ(ファブリケーションラボラトリー等)を整備し、企業のニーズを繋ぐ場、企業及び産学連携で利用できる空間とする。また、企業等が使用しないときには高学年生のアクティブ・ラーニングの推進強化も図れるように計画する。
- ・(解体予定建築物の)「水理実験室」、「風洞実験室」の移設先は、1階に計画する。



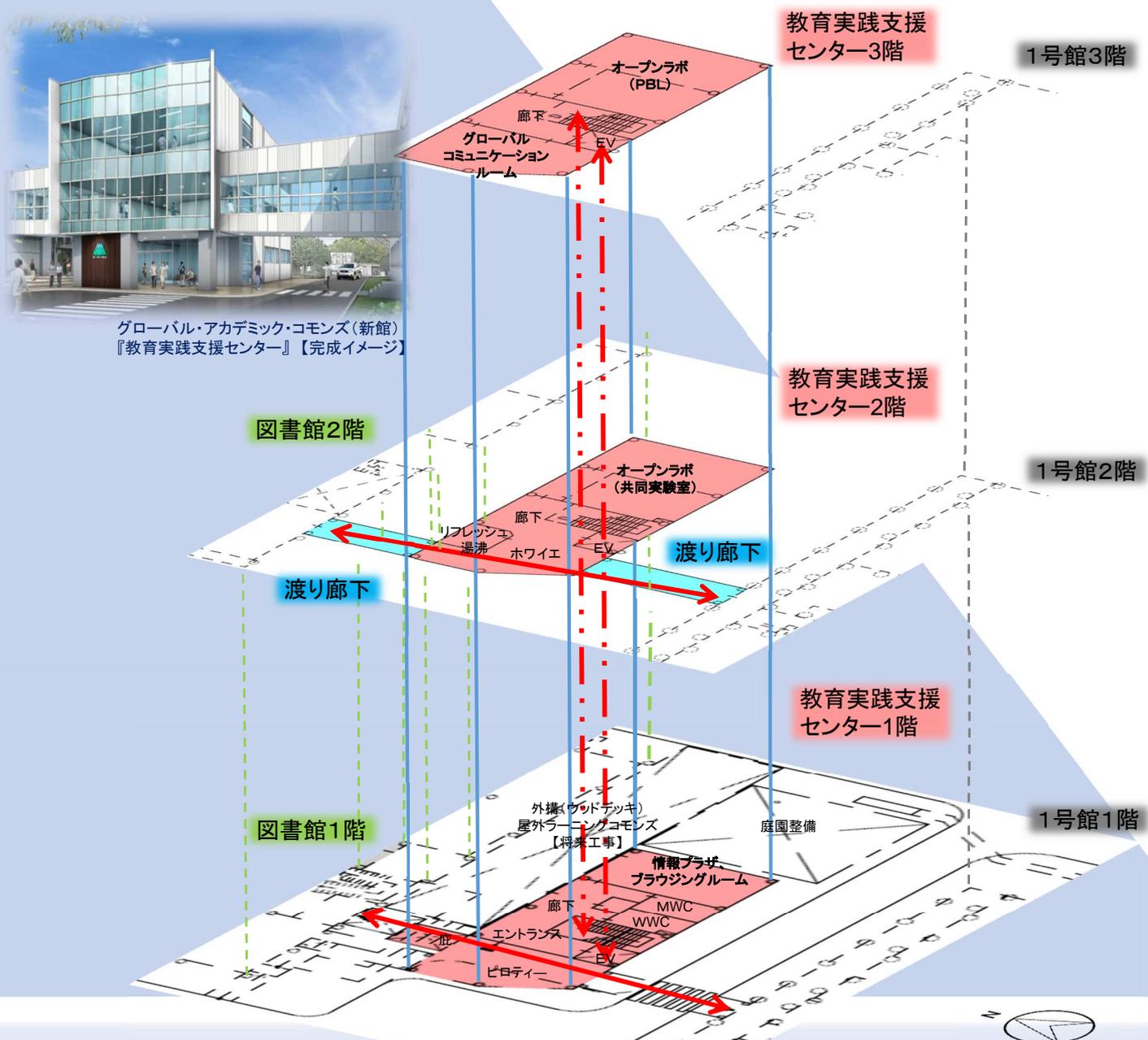
□ 多文化交流棟(防災拠点集会所) [構造・階、面積 : S3、1,050㎡]

- ・留学生交流関連情報の発信機能を備えた国際交流活動の場、地域住民との相互理解を促進する機能として、地域と連携する学習支援活動の場を「多文化との共生空間」として設置する。多文化交流エリアは2階とし、防災拠点施設エリアは1階とする。
- ・外国人との相互コミュニケーションを図り、多様な価値観に触れる機会を確保するための国際交流スペース「留学生センター」を2階に整備すると同時に、外国人研究者の受け入れ体制を整えた宿泊施設「国際交流会館」を2階に併設する。
- ・防災教育及び防災拠点の施設として、災害発生時の活動拠点となりうる設備を備え、自然エネルギーを最大限に活用した集会所的な建物とし、1階に防災拠点集会所を整備し、企業及び産学連携でも利用できるようにオープンラボとする。ZES(ゼス:ゼロ・エネルギー・スクール)を目指す。
- ・多文化交流棟の付近は防災広場とし、備蓄保管設備、耐震貯水槽、防災トイレ、防災ファニチャー等を整備する。また、スポーツ交流と称して、多目的コートを整備し、フットサル・テニス・バレーボール等によるスポーツ交流を推進する。
- ・(解体予定建築物の)開放管理センター「合宿所(女子)」の移設先は、3階に計画する。
- ・木造職員宿舎13棟取壊しを合わせて計画する。



□ グローバル・アカデミック・commons [構造・階、面積 : S3、690㎡]
 『教育実践支援センター』

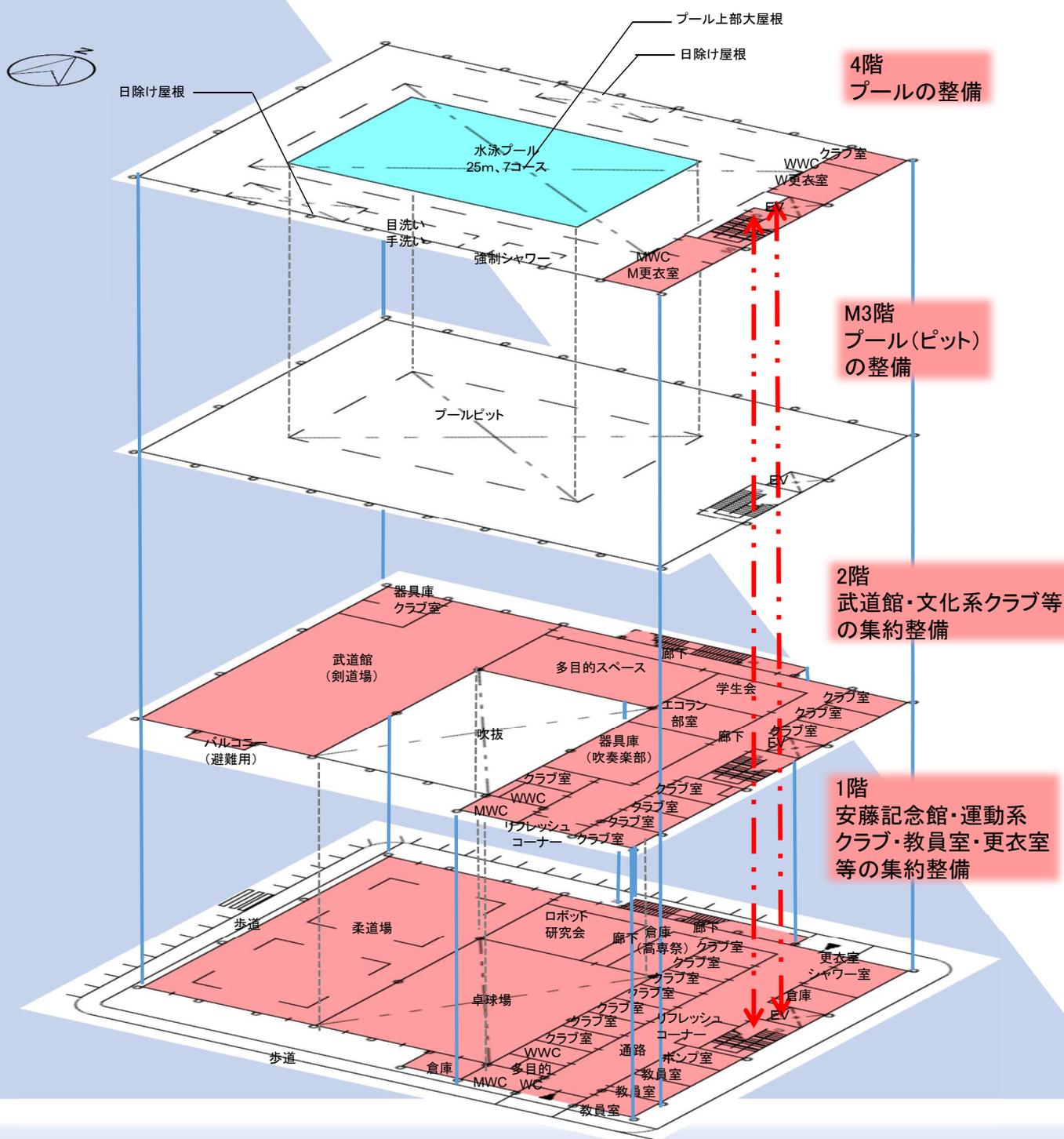
- ・グローバル高専拠点校として、東海・北陸・近畿各高専の持つリソースの共有化、国際交流の共同運営、コンソーシアムの形成のため、他の高専と共同して使用できるスペース「グローバル・コミュニケーションルーム」を3階に整備する。海外の教員・学生が岐阜高専で研修を受けるための拠点施設、国際共同セミナー・共同研究の会場で利用する。
- ・産学連携推進のためのスペース「オープンラボ(共同実験室)」を2階に整備する。長期的かつ継続的に提供できるレンタルラボ(共同実験室)とする。
- ・企業及び産学連携、岐阜高専(OB共)で利用できる「オープンラボ(PBL:プロジェクト・ベースドラーニング)」を3階に整備する。将来のリーダーを育てるための環境として、企画立案型学習法 プロジェクト・ベースドラーニングに対応した「アクティブ・ラーニングルーム」を整備する。
- ・今後の高専の支援者の増加を促す情報展示スペース「情報プラザ、ブラウジングルーム」を1階に整備(自己財源)する。
- ・図書館に隣接させることで、図書館に整備するアクティブ・ラーニングルーム(協働協調型と問題解決型)を含め有効的に活用する。(図書館機能増強:図書館を含めたグローバル・アカデミック・commons計画)積極的で活発な(働きかける)学びができ、図書館の豊富な参考資料文献を利用できる空間とする。
- ・図書館と1号館を開放的で明るい渡り廊下で繋ぎ、その中心に誰もが利用しやすい開放型で能動的な学修をサポートするグローバル・アカデミック・commons(新館)『教育実践支援センター』を整備する。



グローバル・アカデミック・commons(新館)『教育実践支援センター』【完成イメージ】

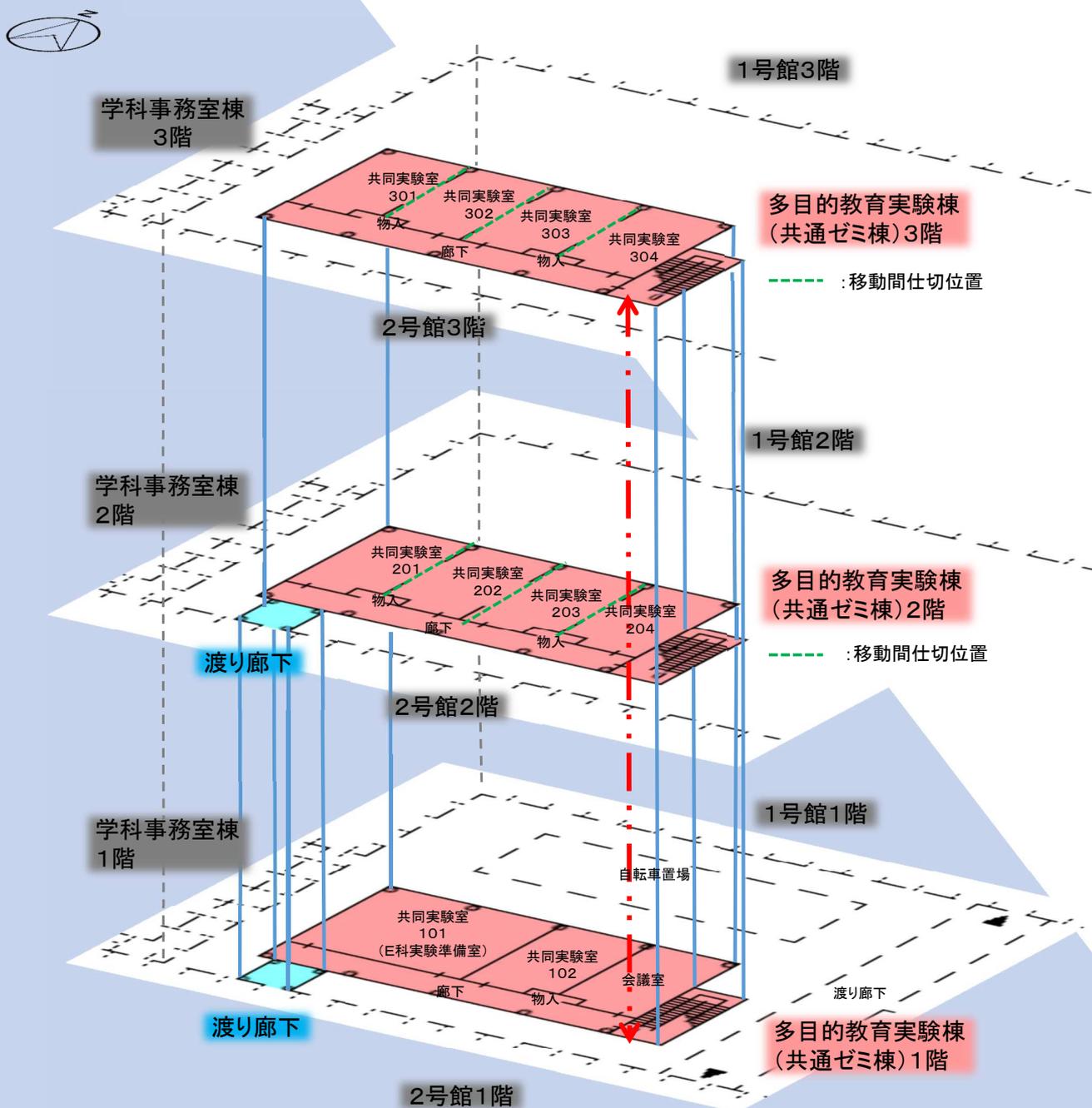
□ 新武道館(体育施設の集約整備等) [構造・階、面積 : R4、2,650㎡]

- ・昭和40年代に建設された武道館・安藤記念館、屋内運動場、プール、器具庫、体育系クラブ施設等をスクラップ&ビルドにより集約整備し、時代のニーズに対応できる設備を備えて、「心・技・体」人を育てる「新武道館」を設置する。
- ・新武道館には、文化系クラブ施設の活動拠点も併設し、文武共に学び活動できるスペースを整備する。
- ・(解体予定建築物の)「体育教員室」の移設先は、1階に計画(教員室を3室確保)する。
- ・体育施設の集約整備後は、正門から西門に抜ける車道、駐車場を整備する。また、車を利用した保護者等が一時的に駐車して待機できる「待機用駐車スペース」と一時的な学生の待機スペースとして「待機場所(日除け屋根)」を新武道館の西側に確保する。



□ 多目的教育実験棟(共通ゼミ棟) [構造・階、面積 : S3、640㎡]

- ・学科間の障壁を除いた待避校舎の機能を併せ持つ「多目的教育実験棟(共通ゼミ棟)」を設置する。
- ・共同実験室(40㎡/室程度)は、ゼミ室や研究室、実験室等多目的に使用できる計画とする。共同実験室間の間仕切を移動間仕切とし、2室を1室(80㎡/室程度)、4室を1室(160㎡/室程度)と広い部屋にすることで、教室や大人数で利用可能な講義室、多目的ルームとしても使用できるようにする。また、オープンラボとしての利用も考慮し、床埋込ユニット等の設備を計画する。
- ・1号館で不足している会議室を1階に確保する。
- ・(解体予定建築物の)「電気実験準備室」の移設先は、1階に計画する。



5. 資料編 (参考資料等)



グローバル・アカデミック・コモنز(新館)『教育実践支援センター』【完成イメージ】

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
①		正門横 掲示板	<p>正面からしか見え難い</p> <p>正門から歩道に出ないと確認できず、歩道も狭いため落ち着いて見れる場所ではない。</p>
②		正門	<p>学校の顔としての整備 地域交流を促進する演出</p>
③		正面庭園	<p>周囲を車路で囲まれ浮島のようにっており、憩いの場所というよりは観せる庭になっている</p> <p>夕方、近隣の住民と思われる親子が遊んだりしていた</p>
④		玄関	<p>正門・バス停及び図書館からの歩行者動線の確保(歩車分離)</p> <p>図書館と校舎の接続に雨天にも利用できる渡り廊下が必要</p> <p>校舎側にEVの設置が必要 → H27.1号館増築工事で課題解決済</p>

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
⑤		図書館玄関(校舎側)	校舎との連絡に難有り 渡り廊下の必要性
⑥		図書館西側(庭園側)	正門からの歩行者動線の明確化(歩車分離:歩道の整備)
⑦		図書館西側(庭園側)	正門の正面に駐車場有り、 庭園が隔離された状態
⑧		正面庭園	手前が駐車帯 外構整備重点エリア

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
⑨		正門横喫煙所	要否の検討 学外から見えてしまう
⑩		体育館北側WC	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
⑪		武道館前坪庭	活用されていない 解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
⑫		武道館東面	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
⑬		武道館西面	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
⑭		クラブ室	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
⑮		屋内運動場	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
⑯		器具庫(部室)	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
⑰		体育館西面～安藤記念館	安藤記念館は解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
⑱		安藤記念館西面	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
⑲		西門	敷地西側道路への動線を検討 新武道館 集約整備時に整備 学生の送迎用に指定されているが、送迎車両の駐車(待機)スペースがない
⑳		西門	敷地西側道路への動線を検討 新武道館 集約整備時に整備

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
②①		屋外便所(野球場)	老朽化 解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
②②		屋外便所(野球場)	老朽化 解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
②③		野球場西側緑地帯	緑地帯の再整備 新武道館 集約整備時に整備
②④		西門南側	新武道館 集約整備時に整備

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
②5		開放管理センター	解体予定建築物 多文化交流棟(防災拠点集会所)移設建物
②6		安藤記念館東・南面	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
②7		安藤記念館～体育館	安藤記念館は解体予定建築物 新武道館 集約整備建物
②8		器具庫(部室)	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
②9		自転車置場	台数不足 設置場所の検討(集約) 裏の部室との間にゴミが溜まる
③0		1号館～2号館西側中庭	玄関ホールとの一体的活用検討 外構整備重点エリア
③1		1号館～2号館西側中庭	付属建物将来撤去予定 外構整備重点エリア
③2		1号館～2号館西側中庭	付属建物将来撤去予定 外構整備重点エリア

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
◎33		1号館～2号館西側中庭	体育教員室 解体予定建築物 外構整備重点エリア 施設内主動線関連整備
◎34		1号館～2号館西側中庭	付属建物将来撤去予定 外構整備重点エリア
○35		2号館横げやき並木	外構整備重点エリア 資材やゴミなど指定の場所がなく無造作に放置された場所が各所に有り → H27.校舎改修(環境都市工学科系) 外構改修にて課題解決済
○36		2号館～3号館西側中庭	大きな樹木がない 外構整備重点エリア → H27.校舎改修(環境都市工学科系) 外構改修にて課題解決済

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
③⑦		けやき並木	外構整備重点エリア
③⑧		3号館～福利施設西側中庭	福利施設との一体的活用検討 外構整備重点エリア
③⑨		福利施設(いぶき)玄関	活用方法の検討 自販機と木が一本あるだけの寂しい広場
④⑩		福利施設(いぶき)北面	北側中庭との一体的活用検討 待合いが暗いため、開口を大きくし中庭と一体的な活用を図る

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
④①		福利施設(いぶき)南側テラス	活用頻度が少ない ※食堂のみ、H26.福利施設 食堂改修にて課題解決済
④②		福利施設(いぶき)南側テラス	擁壁有り
④③		第2体育館西面	学生の通り道有り 舗装がされておらず、雨天にはぬかるみとなる
④④		けやしき並木延長(南方) 学生寮エリア	

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
④⑤		学生寮広場	活用方法の検討
④⑥		けやき並木延長(南方) 学生寮エリア	
④⑦		南門(学生寮側)	地域交流の動線 通り抜けを検討
④⑧		敷地南側水路	

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
④9		南門(合宿所側)	科学技術リテラシーセンター建設エリアへの主動線
⑤0		職員用駐車場	防災広場としての整備
⑤1		職員宿舎	防災広場としての整備
⑤2		6号館	科学技術リテラシーセンター建設エリア

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
53		6号館南側通路	科学技術リテラシーセンター 建設エリア
54		プール	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物 プール観客席が閉鎖的
55		職員宿舎1号	多文化交流用途建築物にリ ノベーション
56		6号館東側空地	科学技術リテラシーセンター 建設エリア

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
57		水理実験室	解体予定建築物 科学技術リテラシーセンター 集約整備建物
58		燃料庫 屋外便所・シャワー室	解体予定建築物 燃料庫は、インフラエリア付 近に移築 屋外便所・シャワー室は、新 武道館 集約整備建物
59		ボイラー室	解体予定建築物
60		屋外便所・シャワー室	解体予定建築物 新武道館 集約整備建物

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
61		敷地東側道路	車両通行はなし
62		敷地東側道路	車両通行はなし ※困障のみ、H26.困障改修にて課題解決済
63		自転車置場等	学生通学動線として再整備 自転車置場の集約化
64		文化クラブ室	学生通学動線として再整備 文化長屋の使用状況が一般学生に分り難く、薄暗い雰囲気 新武道館 集約整備建物

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
65		2号館～3号館東側中庭	ベンチ等の設置
66		1号館～2号館東側中庭 自転車置場	奥まった位置のため、ゴミ等も散乱している 多目的教育実験棟(共通ゼミ棟)建設エリア
67		1号館～2号館東側中庭	多目的教育実験棟(共通ゼミ棟)建設エリア
68		1号館～2号館東側中庭 自転車置場 電気実験準備室	電気実験準備室・南側自転車置場 解体予定建築物 多目的教育実験棟(共通ゼミ棟)移設建物

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
69		図書館東側	学生通学動線 インフラエリア整備
70		図書館南側庭園	教育実践支援センター建設エリア
71		図書館玄関	校舎との連絡通路の整備 教育実践支援センター建設エリア
72		バス停	教育実践支援センター建設エリア バスの待機場所を計画

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
73		玄関	正門・図書館からの歩行者動線(連絡通路)の整備
74		玄関ホール(玄関出入口側)	施設内主動線の整備 ※玄関ホールのみ、H23.玄関ホール整備にて課題解決済
75		玄関ホール(中庭側)	施設内主動線の整備 中庭の一体的活用 学校の顔として開放感のあるホールとしたい ※玄関ホールのみ、H23.玄関ホール整備にて課題解決済
76		玄関ホール(学内案内板横)	施設内主動線の整備 ※玄関ホールのみ、H23.玄関ホール整備にて課題解決済

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
77		廊下	施設内主動線の整備 見通しが悪い 中廊下が有り暗い → H24.リフレッシュコーナー整備「フロインデ・ホール」にて課題解決済
78		廊下から中庭を望む	施設内主動線の整備 → H25.校舎改修「機械工学科系」外構改修にて課題解決済
79		渡り廊下から中庭を望む	中庭の整備 → H25.50周年記念碑記念樹新植にて課題解決済
80		渡り廊下(3号館～福利施設)	施設内主動線の整備 汚れており見た目が悪い

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号1	写 真	場 所	課 題
81		渡り廊下2階	汚れており見た目が悪い
82		1号館～2号館西側中庭	体育教員室は解体予定建築物 新武道館 集約整備建物 外構整備重点エリア 施設内主動線関連整備 玄関ホールに隣接し体育教員室が設置され閉鎖感が有る
83		1号館～2号館西側中庭	体育教員室は解体予定建築物 新武道館 集約整備建物 外構整備重点エリア 施設内主動線関連整備
84		1号館～2号館西側中庭	体育教員室は解体予定建築物 新武道館 集約整備建物 外構整備重点エリア 施設内主動線関連整備

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
85		図書館南西面、バス停	外構整備重点エリア
86		正面庭園	外構整備重点エリア ベンチが必要
87		正面庭園	外構整備重点エリア
88		運動施設エリア西側	門の新設 (本巣市と協議が必要)

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
89		排水処理施設	解体予定建築物 (将来)下水道に接続
90		職員居住エリア東側	防災拠点エリア 門の新設 学校の顔としての整備 地域交流を促進する演出 (岐阜県と協議が必要)
91		正門の北側道路横断歩道部	学生の安全確保のため、押しボタン式の信号を設置 (警察等と協議が必要)
92		庭球器具庫	解体予定建築物 テニスコートエリアへ移築

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
93		6号館と専攻科棟の間	パブリックスペースの整備 大屋根広場(屋外ラーニング・commons)新設
94		1号館正面玄関	正面玄関の整備 庭園に繋がる玄関前大屋根を新設
95		バス車庫・守衛室等	バス車庫・守衛室等の老朽化 西側に、「管理棟・バス車庫」として移築
96		テニスコート	グリーンサンド仕上げ2面の老朽化 人工芝仕上げに改修する。

■ 5-1 キャンパスの現状把握及び課題の抽出

※(番号)○:課題抽出ポイント、◎:新たな課題抽出ポイント、○:課題解決済抽出ポイント

番号	写 真	場 所	課 題
◎97		寄宿舍浴室外部	浴室用のろ過装置使用していない。 ろ過装置を撤去し、パブリックスペースを整備

5-3 策定メンバー

□ 財務・施設委員会メンバー

	(2016年度)	(2017年度)
・校長(委員長)	伊藤 義人	伊藤 義人
・教務主事	熊崎 裕教	熊崎 裕教
・研究主事	和田 清	和田 清
・学生主事	久保田 圭司	久保田 圭司
・寮務主事	麻草 淳	麻草 淳
・一般科目(人文)学科長	亀山 太一	亀山 太一
・一般科目(自然)学科長	坂部 和義	山本 浩貴
・機械工学科学科長	山田 実	加藤 浩三
・電気情報工学科学科長	所 哲郎	所 哲郎
・電子制御工学科学科長	福永 哲也	福永 哲也
・環境都市工学科学科長	吉村 優治	吉村 優治
・建築学科学科長	犬飼 利嗣	柴田 良一
・事務部長	澤田 利夫	澤田 利夫
・総務課長	蒲 美登子	蒲 美登子
・学生課長	山口 敏也	山口 敏也
・総務課長補佐(財務担当)	松浦 克行	松浦 克行
・総務課施設係長	今井 利城	今井 利城

□ キャンパス整備ワーキンググループメンバー

・校長(ワーキンググループ長)	伊藤 義人
・教務主事	熊崎 裕教
・研究主事	和田 清
・学生主事	久保田 圭司
・寮務主事	麻草 淳
・建築学科准教授	今田 太一郎
・建築学科准教授	櫻木 耕史
・事務部長	澤田 利夫
・総務課長	蒲 美登子
・学生課長	山口 敏也
・総務課施設係長	今井 利城

□ 企画・編集メンバー

・校長	伊藤 義人
・建築学科准教授	今田 太一郎
・建築学科准教授	櫻木 耕史
・事務部長	澤田 利夫
・総務課長	蒲 美登子
・総務課施設係長	今井 利城
・総務課施設係員	高橋 慎司
・建築学科学生	清水 信吾

5-4 策定委員会等記録

- ・2016年6月16日 : 平成28年度 第1回財務・施設委員会(策定日程等)
- ・2016年8月19日 : キャンパス整備ワーキンググループ(点検・見直し 策定)
- ・2016年11月29日 : 平成28年度 第3回財務・施設委員会(素案等承認)
- ・2017年3月7日 : 意見交換会等(機構本部施設課等概要説明)
- ・2017年3月15日 : 平成28年度 第5回財務・施設委員会(原案等承認)
- ・2017年5月12日 : 平成29年度 第1回財務・施設委員会(最終版)
- ・2017年5月31日 : 主管会議、運営会議承認

